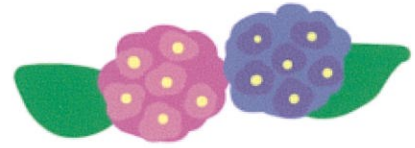


紫竹山コミ協 会報 むらさき



第19号

発行日 令和5年3月1日
発行 紫竹山校区
コミュニティ協議会

紫竹山コミ協

会長就任あいさつ

紫竹山校区コミュニティ協議会

会長 阿部 篤義



今般、野澤正信前会長が体調不良により、今後の活動に於いて、精神的、肉体的に無理をしないよう、医師により診断された。急きょコミ協役員会議を開催検討の結果、令和5年5月の総会まで、私が会長職を代行する事に決定致しました。大変なお役目ですが、紫竹山コミュニティ協議会を代表して誠心誠意努力する所存です。各自治会長はじめコミ協各部会長の協力のもと、地域の皆様にとって安心安全な住み良い街づくりに精進致します。

校区内に在住又は

事務所がある

議員さんのご紹介

私たち紫竹山コミュニティ協議会の

校区内に、在住されている県議会議員市村さんと、事務所を置いている市議会議員内山さんには、日頃より、月例会および研修会等において、いろいろな情報提供やアドバイスをいただいています。この議員さんをご紹介します。

●市村浩二 県議会議員

米山3丁目に住住の

市村浩二県議会議員。



「小さな声を大きな安心へ 命とくらしを守る技術士」として、地元・駅南地域発展のお役に立てるように尽力してまいります。

●内山航 市議会議員

米山5丁目に事務所

を開設している内山航市議会議員。



みなさんと一緒に「駅南バス」を実現させましょう!!

「コミ協地域研修会①

●防災視察研修

●米山第四自治会

研修団長 阿部 篤義

恒例の行事として、当コミ協は災害時における地域の皆さんの安心・安全に対する研修を行っています。今回は東日本大震災の爪痕を視察してきました。震災後10年以上経過するも、現実には厳しく、住民の皆さんが震災以前の生活にもどるのには、まだまだ時間がかかりそうです。

初日は東京電力火力発電所の爆発により、全町民が移転した後に、建設された富岡町震災伝承施設「とみおかアーカイブミュージアム」を見学しました。富岡町の成り立ちと複合災害がもたらした、地域の変化が読みとられました。地域の運命を変えた震災と原子力災害を歴史の1ページとして継承し、町の経験を将来に世界に発信している施設でした。

次に訪れた東京電力廃炉資料館の視察ですが、国民の多数が原子力事故の事実と廃炉事業の現状等を確認する場として原子力事故の記録を残し二度とこの様な事故を起さない為の反省と教訓を東

紫竹山校区コミュニティ協議会

京電力が果たすべき責任だと思えます。二日目は復興した三陸海岸道路を走り、東北電力女川原子力PRセンターへ直行しました。原子力発電のしくみや女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みをはじめ、放射能やエネルギーについて、「見て、触れて、体験して」の学べる施設です。過去の災害を教訓に、自主的に地震対策を施し、震災時にはこのPRセンターが住民の避難所として開放されました。震災当日の夜は、1700名の方が泊る事ができ、非常食は4500食のストックがあり、二三日間は社員は一日一食、避難者には一日二食で過ごし、発電所構内に避難できなかった近隣の方々に



東北電力女川原子力PRセンター集合写真

対し、支援物資を届けたとの事。頭が下がる思いです。この大震災において、女川発電所が無事だった理由が、原子力発電所の安全に重要な、原子炉を「止める」、燃料を「冷やす」、放射能物質を「閉じ込める」が機能したから、震災後避難を求めると地域の方々の受け入れる発電所が、避難所として機能した理由です。災害時いかなる状況でも、安全性を守るための備えを、強化しなくてはなりません。昨今行政から防災訓練の指示が出され、毎年実施しています。災害はいつ、どこで起きるか分かりません。一人一人が注意して、安全の確保をするべく行動してほしいです。

紫竹山自治会

健康福祉部会長 丸山 保

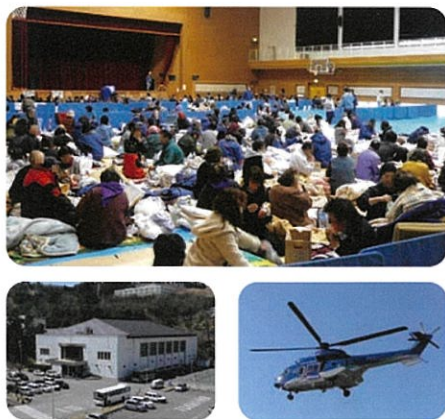
令和4年10月19日(水)～10月20日(木)の2日間、紫竹山校区コミュニティを視察した。この地域も2011年3月11日(金)午後2時46分にマグニチュード9.0最大震度7の東日本大震災の災害に見舞われた。地震当時、人口1万人の内830人死亡(8%)、4000棟被害(90%)、2021年現

在人口6100人。この地域も震度6津波13mに見舞われたが、震源地にも近いこの女川原子力発電所は、当時1号機、2号機、3号機と3基も稼働していたが、無事だった理由。この地域は、昔から明治三陸津波(1896)、第2次三陸津波(1936)と大きな津波が数回あり、女川原子力発電所建設当時に、高さ14.8mに設定。また、建設条件に「広い土地」「硬い岩盤」「大量の水が確保出来る」先人の英知を基にこの土地に建設した。そして、原子力発電所の安全に原子炉を「止める」「冷やす」「放射性物質を閉じ込める」が機能したから被害がなく無事だったなど、色々勉強させていただきまし

鎧西第二自治会

防災委員会会長 小林 隆夫

JR双葉駅から国道6号線に至るメインストリートに、震災前「原子力明るい未来のエネルギー」の看板が掲げられており、自分とすることが重なります。遠い昔の学生時代、私も夢を持ち、石油は枯渇して、原子力の時代が到来す



東北電力女川原発電体育館

紫竹山校区コミュニティ協議会



とみおかアーカイブミュージアム

建屋が爆発して大量の放射線を大気中に放出させました。核種はヨウ素の他、セシウムなど半減期が30年と長いものが大気中に放出され、双葉町などで帰還困難

区域に指定されて、故郷に戻らない住民や帰還できない住民が多くいます。事故前の双葉町に掲げられていた「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は現在、撤去されたらしいですが、これからは原子力時代の到来と思いをよせていたところ、予想に反して石油は枯渇なんかしないで、現在もエネルギーの中心にいます。そして、仕事で石油関係の規制をしていた自分がいて、へんてこな気持ちになります。核燃料が溶融して压力容器に溜まったデブリの回収で、何十年もかかるとしています。この先自然災害の他、戦争やテロなどにより同様な事故がないかと危惧されます。昨今のエネルギー事情で、原発の寿命年数を引き延ばして運転をするようなことを言っていますが、事故がないことを祈るばかりであります。

米山第三自治会

自治会長 大倉 勝彦

2022年11月19日東京電力廃炉資料館を視察してきました。2011年3月11日の東日本大震災マグニチュード7.6の地震、14mの津波に襲われた原子力発電所は、水素爆発を起こし、放射能が町へ拡散され、町民は他所へ避難するこ



東京電力廃炉資料館

とになりました。現在広い地域が安全になり、ポツポツと住民が帰ってきているようです。原子力発電所の4mの電極棒やプールという模型も見ました。このプー

ルといわれるものは、廃炉にしても40年間かかって平常になるとのことです。我々の生活には電力は必要なものですが、これからは北海道の真中あたりへ、新しい原子力発電所を作るようですが、いままでの事故と同じような事が起こらないように、設置してもらいたいものです。

米山第四自治会

自治会副会長 久保 寛昭

東日本大震災視察に始めて参加させて頂きました。率直に言って原発に疑問を持ちました。第一に膨大な建設費(建材等を調達する道路建設等々)、使用済みの廃棄の問題、諸々の天災、又は他国からのミサイル脅威等々、国の存亡に関する重大な事柄です。確かに我々は電気無くしていきられませんが、バス

ンルが煙を潰す程多くを目にしました。しかし土地に限りがある日本では無理と思われず。風力も同じです。更に食糧を海外に輸出する政府の方針に反するのではないかと。太陽発電で100万kw級原発一基分の発電量を得るには、例えば山手線の内側とほぼ同じ面積が必要で、かつて太陽パネルは日本が最先端を誇っていたのに今や中国に取って替わりつつある中で、遅れを取り戻す技術が「ペロブスカイト太陽電池」です。利点①設置場所の制約が少ない②建物の壁や窓の湾曲部分にも設置可能③車や飛行機にも設置可能④曇りや室内光でも発電可能⑤自力で賄う住宅やビル等に設置できる これこそ脱炭素の近道ではないだろうか。同じ原発を保有している我が県としては早々に考える必要があるのではないかと

※ペロブスカイト太陽電池とは、光を電気に変換する結晶構造を持つ、ペロブスカイトという素材から作られる太陽光発電です。一般的に販売されている太陽電池はシリコンを使用しているため、従来の電源に比べて製造コストが高くなっています。ペロブスカイトが、ペロブスカイトを用いた太陽電池で、安価なことに加えて、より軽量で柔軟性を有する可能性があるとされています。注目されている企業は、東芝、ホシデン、リコー、三菱マテリアルの4つの企業です。現在、最大の課題は、ペロブスカイトの不安定性であること、水、光、酸素をこの外的要因による劣化経路によるものと、材料の特性による劣化などの内的不安定性によるものがある点に分かれています。また、一般的な実用化のレベルまでは到達していません。一般に使用されるようになるのは2023、2025年ごろと予測されています。

● 駅南ハイツ自治会

防災士 大澤 耕司

東北電力女川原子力PRセンターは、原発稼働を目指して、東北電力が外部に宣伝周知するためのものです。3月11日の地震津波における被害を受けなかった女川原発が、稼働していなかった事を現地でもわかった次第です。そこで再稼働の為に地震津波への対策として、耐震工事を2023年11月完



東北電力女川原子力PRセンター内部

了予定で工事中。防潮堤・防潮壁の設備については2012年4月にすでに完了しているとのこと。ただし地震による液化で防潮堤が沈下することが無いように、地盤改良を2023年11月完了予定で工事中です。電源の確保対策として、外部電源の耐震性強化、電源車の配備、高台電源センターの整備はすでに完了。更に電源の強化対策を2023年11月完了予定で工事中です。

冷却機能の確保対策として、消防車の配備、代替非常用冷却海水ポンプの配備等は完了しているとのこと。更に、注水・除熱機能の強化対策を2023年11月完了予定で工事中です。閉込機能の確保対策として、原子炉格納容器圧力逃し装置（フィルターベント系）の設置工事も2023年11月完了予定で工事中です。

事故対応の基盤整備として、中央制御室の作業環境の確保、緊急時対策所の整備についても2023年11月完了予定で工事中です。この様に、爾々と東北電力は準備がされていると感じます。我が新潟県の刈羽の電力会社は、はっきり言って其の資格無しとは思

● 米山第四自治会

自治協議会委員 青山 齊

今年度の研修は、2011年3月11日に発生した東日本大震災と原発事故に對して、それぞれの地域でどのような取り組みをしているか?の視察でした。福島県富岡町の震災伝承施設である「とみおかアーカイブミュージアム」と

東京電力廃炉資料館、および、宮城県女川町の東北電力女川原子力発電所の「PRセンター」の三か所を訪問しました。3年前に訪れた富岡町は、人の往来も少し多くなり活気が出てきているように感じました。仙台市などの取り組みのような住宅等を中心にした復興も大切であるが、人と人とのつながりの復興を優先して行きたい、という言葉が大変印象に残りました。

原子力発電所の安全を確保するには、原子炉を「止める」、燃料を「冷やす」、放射性物質を「閉じ込める」の三つが機能することが重要であるといわれます。あの震災の際には、福島第一原発も女川原発も「止める」機能はできましたが、敷地の高さが、福島第一原発は10m、女川原発は13・8mという差があったため、13mの高さの津波の襲来により、福島第一原発では冷却



とみおかアーカイブミュージアム内部

機能の確保ができなくなり、水素爆発を起こし放射性物質が外部に拡散する、取り返しのつかない事故になりました。現在は、東京電力福島第一原発では廃炉に向け、東北電力女川原発では再稼働に向けて、安全第一に考え努力しているという状況でした。

原子力発電は万能なエネルギー源ではないので、水力・火力・風力・太陽光等を手くミックスして、電力を確保してほしいと感じました。

● 米山第五自治会

新潟市議会議員 内山 航

先日、紫竹山コミュニティ協議会の視察で福島第一原発（東京電力）と宮城県女川原発（東北電力）を視察してきました。

報告の順番が実際に回った順番と違いますが、まずは宮城県女川原発（東北電力）について。

会社全体が明るい。東日本大震災の震源地からもっとも近く、津波も福島第一原発と同等の津波にさらされながら、大きなトラブルもなく（トラブルはもちろんたくさんあったのではありません）、原発の安全性を守り切ったというプライドが感じられる説明でした。

地震によって原発は安全に停止（こまでは福島第一原発と同じ）。その後の水の冷却も無事に行われました。

予備電源が津波を想定して高台に設置されていたこと（本電源もかううじて一本残っていた）。当初から地震と「津波」を想定して堤防等を建設していたために、原発全体が地震からも津波からも守られました。

専門家と打ち合わせし、何度も何度も防潮堤の高さを変えていたとのこと。過去の資料を見て防潮堤の高さを検証



東北電力女川原子力PRセンター内部

し続け、そしてその想定通りの津波が実際に来しました。

地震、津波、テロ、その他様々な異常な事態への対策を説明していただきました。

前日は、東京電力「福島第一原発」へ。現地に行ったわけではもちろんなく、実際は東京電力廃炉資料館。

地震によって原発が安全に停止したのは女川と同じ。ただ、その後、電源の消失によって冷却ができなくなり、水が蒸発し、炉心がむき出しになり、溶け出し、今なお取り出すことができません。

1、2、3号機はメルトダウン。運転停止中の4号機をはじめ、1、3、4号

機で水素爆発を起こしました。2号機は1号機の爆発で破損していて、水素がたまらなかつたと説明があったはず（4号機の水素爆発は3号機の水素が流れ込んだと説明がありました）。津波によって地下に設置されていた予備電源（非常用ディーゼル発電機）が壊れ、異常の事態となりました。最後は富岡町のアーカイブミュージアムへ。地震によってたくさんのモノが集まってきて、それを展示補完するスペースが必要になったところから建てられたものだと思います。住民の方のインタビューでは、避難の指示が出ていましたが、原発の情報も入らず、なぜ逃げているのか、分からない方も大勢いたそうです。津波は終わったのになぜ?という感じ。実際に津波にやられてしまったパトカーとかもぐつとくるのですが、何気ない日常の新聞とか、2011年4月に行われる予定だったポスターとか、ホワイトボードの文字とか。そういう日常に一番、時の長さというか、日常の大切さというか、感慨深いものを感じます。



東京電力廃炉資料館内部

こういうことが起こると、いつも日常のありがたさを感じるのですが、それでも日常はいつもすんなり過ぎていってしまいます。切り取って大切にしておくことができない。失わないと感じられないというのは、人生を損しているなあと感じますが、それでも感謝しつつ、生きていくことはできますし、少しでも日常に愛着を持ちつつ、過ごしていきたいなど。私がこどもたちにできることも少なくなってきました。孫に「じじ!!!」と呼びつけられる週末です（笑）。日常に感謝しつつ。

紫竹山校区コミュニティ協議会

紫竹山校区コミュニティ協議会



駅南コミセン2F大ホール
避難所運営訓練市担当者講評



駅南コミセン2F和室
避難所運営訓練各班分れ意見交換



駅南コミセン2F大ホール
避難所運営訓練 YouTube 視聴

12/4 三協地域研修会②

●避難所運営訓練

●紫竹山防災会

防災委員長 小林 隆夫

令和4年12月4日(日) 駅南コミセンで避難所運営訓練を行いました。紫竹山コミ協所属の自治会の役員より76名が参加し、避難所運営訓練のスケジュールに従い、全体研修としてあいさつ後に千葉市避難所運営訓練(YouTube)を視聴後、各班に別れ運営訓練(各班の作業について) 検討、意見交換しました。

●避難所運営訓練振り返り

各班アドバイザー

●総務班

中村 昌雄

・受付でのコロナ感染者チェックが大変で渋滞しないか。↓風除室の手前にテントを設ければ良いのでは。
・避難者カードを事前に配った方が良いのでは。鏡西1、2自治会では既に配っている。↓他の自治会も配った方が良い。
・事前調査で、各自の得意分野、資格等(医師、看護師、保育士、通訳、日本語が話せる外国人)等を把握で

きるようにする。
・ベット区画に対する対処を明確にする。
↓目隠しと寒さ対策として、テント素材のような厚手シートを用意する。
・外出に対するルールが必要。↓事前の運営委員会で決める必要がある。

●情報班

小林 隆夫

・行政間で無線通信ができる無線機が紫竹山小だけにある。↓3避難所と1補助避難所に免許不要の無線機を配備する。
・受付前の公衆電話が必要がある。
↓必要に応じて、電話使用制限を緊急時優先措置を講じる必要がある。

●救護班

小菅 文定

・避難所周囲の在宅医師との事前提携の必要がある。



・避難者から各種資格者の応援を得る(看護師、救急救命士、保健師等)。
・救護班の常備品として用意要望する。
↓体温計、血圧計、パルスオキシメータ、聴診器、AED、酸素吸入器、消毒液等、常備薬。

●環境班

大澤 耕司

・紫竹山ひまわりクラブ、憩いの家「米山荘」 駅南コミュニティセンターの3つの管理者との話し合いが必要。運営委員会への参加要請。
・発熱等を外階段で3階に誘導する事は現実的ではないのでは。

●食料物資班

中村 哲

・自治会ごとの参加人員が把握できず、配布品の正確な把握ができなかった。
↓受付での情報(避難者等)の共有化する必要がある。

●ボランティア班

高野 富男

・直接ボランティアをする訳ではないことを理解する。ボランティア管理(要望管理、派遣要請、人員管理)。
・災害発生の数日は、他班で手薄なところをバックアップする。

10/23 三協地域研修会③

●健康福祉部会 健康教室

健康福祉部会長 丸山 保

新年あけましておめでとうございませす。兎年の特徴は、「飛躍」「向上」であります。

未だ収束しないコロナ感染や、ウクライナ侵攻、景気等が、良い方向に行きます様、切に願っております。

昨年令和4年10月23日(日) 駅南コミセンにて、健康教室「笑いヨガ」がコロナ禍の為に中止してしまいました。3年振りに、笑いヨガリーダーチャー陽子さんを迎え、開催いたしました。

当初は、参加者が何人来られるか、心配致しておりましたが、紫竹山コミ協(12自治会)各自治会長に回覧を回し、ご協力いただき有難うございました。おかげさまで、総数63人の参加者がありました。今年もこれから計画いたし、少しでも地域住民の健康に役立つように、活動いたしますので、その節はよろしく願いたします。



もこれから計画いたし、少しでも地域住民の健康に役立つように、活動いたしますので、その節はよろしく願いたします。



駅南コミセン2F大ホール 笑いヨガ開催



駅南コミセン2F大ホール 笑いヨガ開催

2/25 三協地域研修会④

●防犯防火委員会 認知症サポーター養成講座

防犯防火委員長 濱田 宏幸

厚生労働省の推計では、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると言われております。認知症について、地域で正しく理解することも、防犯防災の一助と思ひ、今回の講座を企画しました。

●認知症サポーターとは

認知症サポーターは何か特別なことをする人ではありません。

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。

その上で、自分のできる範囲でサポーターとして活動しています。認知症サポーター養成講座で得た知識を生かし、近所で気になることがあればさりげなく見守る、まちなかで困っている人がいたら手助けすることも立派な活動の一つです。

●認知症サポーターの証

認知症サポーターには「認知症の人を応援します」という意思を示す認知症サポーターカードやオレンジリング等が渡されます。

※令和2年度までは認知症サポーターの証として、オレンジリングが全国一律で配布されていました。



オレンジリング



認知症サポーターキャラバン

●地域包括支援センターとは

介護・医療・保健・福祉などの側面から高齢者を支える「総合相談窓口」です。新潟市地域包括支援センター宮浦東の担当者が、業務や実際に地域の方々にどう関わるかについて具体的に説明いただきます。

駅南地区住民バス計画について

駅南地区では公共交通バスの路線が少なく、近年の高齢化・免許返納等で、買い物難民や通院難民が増加して、日常生活に支障が生じています。

そこで駅南地区の公共交通バスの通らない路線で、駅南口と駅南に点在するスーパーマーケットや病院通いの路



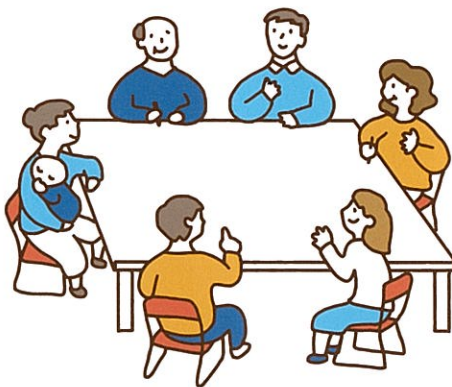
線を結び、また万代バスセンターを経由し、古町へ伸長して、通院・買物

の利便性を高めて、住み良い駅南地区を築いて行きたいと考えています。

この計画を推進するために、令和5年度の紫竹山コミ協の活動方針では、住民バス部を新設して活動を進めて行く予定です。

これらの計画を成功させるためには、地域に住む自治会の皆様や、関係するコミュニティの理解と協力（住民バスに乗車）が必要になります。

既に市との打ち合わせを進めています。この計画の発案者である野澤前会長の協力を受けながら、進めて行きます。宜しくお願いします。



緊急時の避難所を
決めておきましょう

指定されている避難所には災害時に、食料・飲料水・毛布などが届けられず。緊急時にはどこへ避難するかを家族で話し合っておきましょう。



- 指定避難所は次の三カ所のみです。
 - 紫竹山小学校
 - 駅南コミュニティセンター
 - 北越高等学校
 - テクノスクール
- (津波発生時一時避難所)

編集後記

まだ、コロナ禍が続いています。ワクチン接種が進んでいます。自分や家族の命は、自分で考えて守らなければなりません。また、住民バス事業の検討を始め、いろいろな活動が検討実施されて、地域活動は面白くなってきました。それら事業の一助となるように「会報むらさき」も一層充実させて行きたいと思えます。